

消防の広域化に係る市町別効果事例

1 小田原市

小田原市は、管轄市町の中で最も消防需要（災害件数）が高いことから広域化の効果を受けやすく、特に旧管轄境にある地区において大きな効果が出ている。

また、これまで現場到着までに時間を要していた橘地区は、中井出張所からの出動により最も効果が現れている。

【効果事例】

小田原市小竹では、広域化前と比較して救急車の現場到着時間が平均で4分以上短縮している。広域化により、これまでの管轄区域にとらわれず行政区域を越えた活動が可能となったことにより現場到着時間が短縮した事例である。

2 南足柄市

南足柄市の中でも、旧管轄境に近い地区ほど広域化の効果が大きい。その理由としては、もともと近接していた署所（岡本出張所・栢山出張所）が広域化により互いにカバーし合うことが可能となった相乗効果であると考えられる。

そのため、岡本出張所（消防隊、救急隊兼務運用）が出場中であっても、栢山出張所がカバーするなど補完体制が強化された。

【効果事例】

松田分署の特別救助隊が他の災害で活動中に、南足柄市内で2件の救助事案が発生したが、小田原消防署の高度救助隊及び南町分署の特別救助隊が出動し対応にあたった。

広域化しなければ応援要請してからの出動となることから大幅に出動が遅れるが、広域化により直ちに補完することができた事例である。

3 中井町

中井町における消防広域化の最大の効果として「部隊の増強」が上げられる。

広域化前の兼務体制等を廃止し、消防隊、救急隊それぞれが単独運用となったことで消防力が向上した。

また、中井町で発生した緊急度の高い救急事案に対しては中井出張所の消防隊が非常用救急車で救急出動する特別な運用体制をとっている。

【効果事例】

中井町で発生した建物火災では、消防車両計14台が出動し消火活動等にあたったことで近隣への延焼を阻止することができた。

広域化による初動体制の強化により、迅速に多くの部隊が現場到着することで、火災等の拡大を防ぎ被害を最小限に抑えることができた事例である。

4 大井町

大井町の中でも旧管轄境に近い地区は、栢山出張所や西大友出張所がカバーするため、消防部隊の現場到着時間の短縮効果が高くなっている。

また、大井町は広域化により管轄区域の中心部に位置することとなったため四方を消防署所に囲まれ、火災等の際には部隊の集結時間が短縮したことで、初期段階で多くの消防力を投入することが可能となり被害の軽減につながっている。

【効果事例】

大井町西大井地区では、広域化前と比較して救急車の現場到着時間が平均で1分以上短縮している。また、大井町で発生した建物火災についても、広域化前は松田分署が最も早く現場到着していたが、広域化後は栢山出張所や西大友出張所が最先着することで、部隊全体の現場到着時間が短縮し、近隣建物への延焼拡大を阻止した。広域化により、これまでの管轄区域にとらわれず行政区域を越えた活動が可能となったことにより現場到着時間が短縮した事例である。

5 松田町

松田町は、寄地区や東名高速道路における災害では1回の活動時間が長時間に及ぶことがある。広域化前は交通事故等で救助隊が出場した際、その間の救助事案への迅速な対応が不可能となっていた、広域化により小田原消防署の救助隊がカバーする体制が構築されたことからバックアップ体制が強化された。

また、旧管轄境に近い地区は、栢山出張所や西大友出張所がカバーするため、消防部隊の現場到着時間の短縮効果が高くなっている。

【効果事例】

松田町で発生した救助事案では、災害現場の近くを走行していた栢山出張所の救急隊（足柄上病院から帰署途中）が、その場から出動したことで迅速な現場対応が図れた。

広域化により、消防指令センターが全ての車両を、車両動態位置管理装置（GPS受信機能）で管理することで、救急要請に対して、走行中でも災害発生現場に一番近くの車両を選択して出場させることが可能となることから、現場到着時間の短縮が図られた事例である。

6 山北町

山北町における消防広域化の最大の効果として「部隊の増強」が上げられる。

広域化前の兼務体制等を廃止し、消防隊、救急隊それぞれが単独運用となったことで消防力が向上した。

また、これまで出動していた中井町など遠方の地区への出動がなくなったことから自地域への災害に備えることが可能となっているほか、山北町の丹沢方面で多発する山岳救助事案に対して、広域化により山岳救助研修を定期的実施することで、山岳救助に対応できる職員が増員され、対応力が向上している。

【効果事例】

山北町で発生した水難事故では、多くの部隊を投入した長時間に亘る災害活動にもかかわらず、他で発生した災害活動に大きな影響を及ぼすことがなかった。また、同町で発生した交通事故では、活動が困難な状況であったが小田原消防署の高度救助隊と松田分署の特別救助隊の連携により円滑な活動が行われた。部隊数の増加や補完（バックアップ）体制等、広域化のスケールメリットにより総合的対応力が強化されたことによる効果事例である。

7 開成町

消防広域化によりもともと近接していた栢山出張所、西大友出張所が広域化によりカバー可能となったことにより、開成町の中でも、旧管轄境に近い地区ほど広域化の効果が大きい。

また、広域化により管轄区域の中心部に位置することとなったため四方を消防署所に囲まれ、火災等の際には部隊の集結時間が短縮したことで、初期段階で多くの消防力を投入することが可能となり被害の軽減につながっている。

【効果事例】

開成町で発生した建物火災では、栢山出張所の消防隊及び救急隊が最も早く現場到着し活動を実施した。火災による負傷者が出ていたが迅速に対応が図られた。

広域化により、これまでの管轄区域にとらわれず行政区域を越えた活動が可能となったことにより現場到着時間が短縮した事例である。

※紹介した効果事例については多くの効果事例がある中の一部であるほか、各市町に共通した効果でもある。